

年報第 10 号発刊によせて

茨城大学大学院教育学研究科 教育実践高度化専攻長
鈴木 一史

本学教職大学院は、6 コースに改組して4 度目の修了生を送り出します。修了者が増えるに伴い、ともに学んだ仲間が各学校や県内教育施設の様々なところで会うことも増えてきました。横のつながりを感じられる日々です。

この年報は、学生の教職大学院全体の活動をまとめたものであり、学修の記録です。年報には学生の2 年間の取り組みをまとめた「実践研究報告書」の抄録原稿を掲載しており、Web 上でも公開しております。それぞれの学生が取り組んだ実践研究は、教職大学院に在学中に取り組んだ成果であり、多岐にわたる広い視野での研究や深い専門性を突き詰めた研究などが多数収録されております。ぜひともご一読いただき、ご助言やご指導を賜りますようお願い申し上げます。

昨年度は、「教員養成評価機構」からの認証評価を受け、評価書の中で、「ディプロマ・ポリシーに掲げた①子どもを深く理解できる力、②広い視野、③深い専門性、の3つの資質・能力の育成を図るように体系的な教育課程が編成されている。」とのコメントをいただきました。したがってこのことを軸として本年度も進んでまいりました。また、茨城県の教育組織との連携として、茨城県教育委員会や各市町村と密接な協議を重ね、教育課程連携協議会や実習連絡協議会などの場を設けることで、教職大学院のカリキュラムの見直しを実施しています。連携協力校の市町村教育委員会の皆様からのお力添えをいただきながらの運営であり、心より御礼申し上げます。

今年度の教育実践フォーラムは、令和 6 年度の茨城県つくば市教育長の森田充先生のご講演「GIGA スクール構想の実現に向けた学校教育の取り組み～つくば市の取り組みと令和の日本型学校教育～」を踏まえ、「生成 AI を活用した学校経営―校務・授業 DX を通して」と題して、かすみがうら市立霞ヶ浦中学校校長の奥沢哲也先生に教育改革の一端とこれから教育が向かう先についての貴重なお話をいただきました。講演後のワークショップでは、霞ヶ浦中学校の先生方に実際に作成したアプリや授業で使っているアプリなどを用いて、実際にパソコンを動かしながら DX の今を感じ取ることができました。教育の中に AI がいよいよ深く入り、我々大学教員も同様にこの先端教育を取り入れて授業を構築していく必要があると改めて考えさせられました。

昨年から行っている「ホームカミングデー」と題した懇親会も「茨苑会館内バーカリーショップ」を会場とし、80 名近くの参加者が集い、盛大に行われました。今後も様々な交流の場を設定し、相互の親交を深めていくとともに、修了生の活躍や教職大学院に対する希望や期待なども集約できる場としたいと考えております。

最後に、本大学院の実習や研究の遂行に際して、多くの関係諸機関の方々からご協力をいただきました。茨城県教育委員会、県内各市町村教育委員会、茨城県学校長会、茨城県教育研究会、そしてさまざまな実習科目にご協力いただいております教育関係機関ならびに、茨城県立歴史館、茨城県立近代美術館、水戸済生会総合病院など様々な施設の皆さまにも多大なるご支援をいただきました。厚く御礼を申し上げますとともに、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。